

二宮西中と二宮中の卒業生が‘ケニア共和国’でつながる

今年3月のこと。

「お久しぶりです。実は今、国際協力 NGO で働いており、ケニアのナイロビに住んでいます。古澤さんと連絡を取りたいのですが～」と学校のメールに二宮西中学校卒業生の遠藤さんからメッセージが二宮中学校長宛に届きました。聞けば遠藤さんは、昨年7月より JICA 青年海外協力隊員としてケニア共和国に派遣されている二宮中学校在籍の古澤教諭のことを学校 HP で知ったそうです。

古澤教諭はケニア山麓での生活にすっかり慣れ親しみ、その大自然を満喫しながら、年中～中学2年生が600名ほど在籍している公立初等学校で主に算数・数学を教えています。

一方、遠藤さんは、国際協力 NGO ワールド・ビジョン・ジャパンの駐在員として昨年3月よりケニアで水・衛生改善事業に携わっています。そして同じ二宮町出身の古澤教諭が近くにいることを知り、何か協力できることはないかという思いが募って連絡をくれたのでした。

その後、二人はナイロビで会うことができました。古澤教諭は二宮中学校の卒業生。小・中学校は違えども同時代に野球部で活動していたという共通点もあり、幼少期から過ごした‘ふるさと二宮町’に思いを馳せながら、遠いケニアの地で親交を深めることができたようです。

教室がケニアとつながる



遠藤さんが見た学校 HP の記事は、今年2月に古澤教諭が二宮中学校1年生社会科の授業にオンラインで登場したことについてのものでした。「世界の様々な地域」の自然環境・歴史文化・経済を学習している1年生は、ケニアの自然環境、文化の特徴や日本政府の具体的な支援の状況について知り、ケニアが辿ってきた歴史や日本とのつながりについて考える契機にもなりました。

(←ケニアの学校から元気な姿を見せる古澤教諭に、画面越しに質問をしている二宮中の生徒)

中学生が卒業生とつながる

そして今年の6月。遠藤さんは一時帰国中に二宮中学校を訪れ、3年生社会科の授業で国際協力のあり方について講義してくださいました。3年生は、高層ビルが立ち並ぶケニアの首都ナイロビや日頃彼が支援活動をしているケニア西部のマングガ地域のスライド等も見ながら、途上国の人々が直面している水・衛生問題、それらに対する国際協力のあり方について学びました。彼自身も中学生の時に海外協力経験者の話を聞き、国際貢献に興味を持ち始めたことがその後の進路選択につながったということです。自分の夢を叶える(↑「安全な水とトイレを世界中に!」と語る遠藤さん)ために努力を重ねて生きてきた彼の人生観にも触れることができた有意義な時間となりました。

長年抱いた夢を実現して国際協力という仕事に携わり、人々がより良く生きられる未来を目指し、日本を離れて日々活躍している二宮町出身の頼もしい若者二人をたいへん誇りに思います。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

